

## フェスティバル2015各支部発表 ～県連の活動を支える支部活動～



石巻西高校



泉松陵高校



白石工業高校



涌谷高校



一迫商業高校

### フェスティバル2015を終えて

10月15日（木）太白区文化センターにおいて、「みやぎ高校PTAフェスティバル2015」が開催されました。私は、26年度、27年度県連事務局校のPTAとして参加しました。向山高校の運営スタッフは総勢50名。受付をはじめとして、配食・接待・ステージ係と入念な打合せのもとにお手伝いをしました。

当日は約400名の参加者を出迎え、遠くからの参加者も多く、PTA活動への関心の高さに驚きました。また、仕事の合間に舞台袖から垣間見た、「早川流清水目ハッ鹿踊」の迫力に圧倒されながら、親も子も真剣に向き合う姿はすばらしいと思いました。

昼食配布時のトラブルなど、各担当への連絡がうまく届かなかった点はありました。しかし、スタッフの協力のもと無事に終了することができました。事務局、運営スタッフ、そして参加者の皆様のご協力に感謝いたします。この経験を来年の仙台大会に生かしていきたいと思います。



仙台向山高校 第2学年委員長 山岸 智子

# 高P連会報

## 秋晴れのもと

## 「フェスティバル2015」開催

未来への確かな希望の光となることを祈り、「親も子もともに未来を生き抜く力を育もう」をテーマに掲げ、10月15日（木）仙台市太白区文化センター〈楽楽楽ホール〉に約400名の保護者と教職員が参加した。

### 本会を応援される姿に感謝、感謝、感謝！

開会セレモニーが10：30から行われ、今年度県連会長を務める仙台向山高校の嶺岸若夫会長が挨拶した後、6月の総会に引き続き、宮城県教育委員会教育長 高橋仁様と宮城県高等学校長協会会长 渡邊幸雄様から御祝辞をいただいた。また、このお二人とともに宮城県教育庁参事兼生涯学習課長 三浦正之様、同じく生涯学習課協働教育班の渡邊峻班長と石塚靖明課長補佐にも御臨席頂きました。



嶺岸若夫会長挨拶



高橋仁教育長祝辞



渡邊幸雄校長協会会长祝辞



石川太郎氏講演



第4面に続く

### 石川太郎氏、生きていくことへの思いを語る

11：00から、東北放送（株）アナウンス部専任部長の石川太郎氏に講演していただく機会に恵まれた。

石川太郎氏は、1959年大阪でお生まれになり、大阪芸術大学を卒業した1982年にTBC東北放送に入社された。東日本大震災直後から夕方のニュースワイド『Nスタみやぎ』のメインキャスターを担当している。また、この秋で15年を迎えた長寿番組土曜日の4時間ラジオワイド『それいけミミゾー』は、飽きのこない軽快な語り口でリスナーを魅了している。

講演は、「生き抜く力の源泉」と題し、父親が仙台出身で青春時代を旧制二高に学び、仙台のことを折に触れ、話されていたことが東北放送を受けたきっかけになったこと、またご自身の子育てを振り返り、最初はほかの子どもと同じでありたいとの思いが、自分の子どもは特別と思いたいと変化していることに気付く自分がいることなどを話されたのち、ご自身の生まれ育った環境や家族のことについて、姉と12歳離れていることを小さいころから不思議に思い、よその家族とは異質なものを胸にしまっていたが、実は姉の父親が病死し、その後母親が再婚しご自身が生まれたことを知った。それからは家族の歴史に深い思いを抱くようになり、異質なものを受入れることが生きること、生き抜く力ではないかと話された。いつもの軽妙で、歯切れのよい語り口に引き込まれ、あっという間の一時間だった。社内では要職にありながら、スケジュールを調整し講演を引き受けさせていただいたことにあらためて感謝の意を伝えたい。



防災教育・復興教育～「防災教育」・「復興教育」の推進について～をテーマに、都南文化会館（キャラホール）で「特別第2分科会」が開催された。気仙沼高校元PTA会長の熊谷栄明氏がパネリストの一人となり、東日本大震災当時、気仙沼高校PTA会長として教職員と連携し、授業の早期再開や大学入試センター試験の地元開催を県教育委員会に要請したこと、震災後は被災者雇用を支える社団法人「気仙沼復興協会」の設立に携わり、理事として活動に参画したことなどを発表された。

